

巻頭言

令和4年度はウクライナとロシアの戦禍の中、人々の生命の尊さを希求する看護職を育てる大きな責任と強い使命感を実感した1年でありました。さらに、石川県立看護大学の新たな足跡を刻む年度となりました。産学連携の共同研究講座「看護理工学」を始動させることができました。「安全は機械に、安心は人に」をモットーとする看護理工学の理念に基づき、新たなイノベーションをこのかほくの地から巻き起こすことができれば望外の喜びとなりましょう。

令和4年度は、長年勤務されていた教員2名の退職年度を迎えました。今後、新旧の入れ替わりが続く本学の世代交代の時期を迎えたともいえます。今までに築いてきた石川県立看護大学の伝統を生かしながら、新たな時代を切り開いていく学生、院生を育てていくことが大切となっていくでしょう。

私たちはコロナ禍を経験して、さまざまなデジタル技術を駆使した情報共有手段のノウハウを学びました。遠隔地であっても目の前で対話することができるようになりました。技術教育をすることができるようになりました。学会に参加し、討論ができるようになりました。飛躍的に成長したこれらの技術を活用しながら、看護教育をどう充実させていくかが私たちの共通課題となりました。これからの時代に教育のDX（Digital Transformation）化を図り、未来を担う看護職の看護実践力の向上に寄与できる学修環境、教育方法を発展させていきたいものです。まずは、令和5年度からの教育のDX化に向けてDX委員会、2つのワーキンググループを立ち上げました。試行錯誤を重ねながらも着実に成果を挙げていきたいと若手を中心に意気込んでおります。現在の学生や院生たちには、どのような未来が待ち受けていることでしょうか。一方で、失ったのではないかと危惧される現象にも立ち向かわなければなりません。人と人が対面でコミュニケーションをはかり、心を通い合わせることに腐心していかなければなりません。

社会貢献として看護キャリア支援センターでは令和6年度から「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）」を開設することが方針として定まりました。1年の準備期間を頂きましたが、特定行為研修を含む認定看護師教育課程を開設することは県内の多くの医療機関の協力なしにはできません。ひとつひとつ、課題をクリアしながら、今、求められる看護師像を模索してまいりたいと存じます。本学の卒業生・修了生はじめ、広く県内・外の看護師の実践力向上に本学を活用いただけると信じて取り組んでまいります。

引き続き、皆さまからの本学に対する忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。



第 23 回入学式 (令和 4 年 4 月 5 日)



夏のオープンキャンパス（令和4年7月10日（対面））



夏期アメリカ看護研修（令和4年8月22日～27日）



JICA 日系研修（令和4年9月1日～20日）



感染管理認定看護師教育課程（令和4年7月4日～令和5年2月10日）



秋のオープンキャンパス（令和4年10月22日（対面））



「インターナショナルカフェ」(令和5年3月1日)



第19回卒業式・学位授与式(令和5年3月18日)